

グリーン・リージョンを実現する里山バンキング

田中 章（東京都市大学環境学部教授）

環境都市を考える時、その都市を含む地域全体からの観点も重要である。本稿では、地域の中の自然環境と都市環境、そのバランスの重要性について述べた。

日本の里山（ここでは、里海、里地も含めた日本の二次的生態系の総称）は、かつて地域経済と生物多様性の基盤であったが、今日では「オーバーユース」（開発等による自然消失）と「アンダーユース」（利用されず放置され劣化）による危機に直面している。つまり里山に関する生物多様性保全活動は、このままだとどのように進めてもコストにしかならず、持続的になり得ない。「里山バンキング」とはこれらの問題を同時に解決しようとする新しい経済的手法である。

その基本的な仕組みは、今日ほとんどの先進国が制度化している「生物多様性オフセット（代償ミティゲーション）」（日本は未整備）の自主的な導入と、その発展型としてアメリカ、ドイツ、オーストラリアで盛況な「生物多様性バンキング（ミティゲーション・バンキング）」の仕組みの応用と、さらには現存する様々な地域経済活性化を目的とした里山保全活動の3つを日本の実情に合わせて融合するものである。これによって、これまでコストであった里山の生物多様性保全活動をプロフィットへと転化することが可能になる。

里山バンキングの仕組みを図1に示す。開発事業など自然を消失させたり劣化させたりする事業者は、環境アセスメントにより自然の損失を把握し、その同等分を里山バンクで購入し確保するというものである。今のところ日本では、開発事業などで自然が失われてもその自然を補償する制度（代償ミティゲーションとしての生物多様性オフセット制度やノーネットロス政策など）は存在しないため法的な根拠はない。日本も早期に法制化すべきだと考えているが、日本ならではの地域連携の中での「里山バンキング」もある程度までは実現可能だと考えている。

まず、里山バンカー（基本的に誰でも良い）はある流域（集水域）など一定のエリア内でまとった保全すべき地域を里山バンクとして選定し、生物多様性保全活動を進める。この作業には地域の里山保全活動を行っているNPO、市民、学校との協働もある。一定の生物多様性を損なうことがない範囲で、農林漁業やエコツーリズムや環境教

育ビジネスなどの利用はむしろ促進される。里山管理に対する自治体などからの助成金なども利用できるものは利用する（持続性という観点で問題がないとは言えないが）。つまり現状の法制度において可能な保全活動はすべて行うと共に、前述した開発事業者などからの生物多様性オフセット代金がある。

事業者にとっては、開発などによる自然の消失分の自然保護代金を支払うことは短期的には経済的負担となるが、自分たちの所属する地域社会への生物多様性保全に関する責任を果たす団体というブランディングに貢献し、中長期的には経済的なメリットとなっていくと考えられる。もちろん里山バンクの自然保護活動を支援することで、自分たちが計画する開発事業のスムーズな遂行が可能になるだろう。逆に、最近のSDGsの普及などに見られるように生物多様性保全の主流化が国内でも進めば、自分たちの開発のために地域の自然を破壊し、それに対して何の代償も行わない場合には、企業イメージの低下や国際市場での競争力低下などのリスクを負うことにもつながる。

里山バンクは生態学的にメリットのある広いエリアで行われ、通常は複数の開発事業による代償として使われる。そのため里山バンカーにもより多くのオフセット代金が入る仕組みである。「里山バンキング」によって、従来、コストでしかなかった里山生態系の保全活動がビジネスになり、その結果、地域経済の活性化の強力なエンジンとなり得る。そのためには、里山バンクからのどのような自然がどれくらい維持、復元、創出できているのかという生態学的かつ定量的な情報発信は不可欠である。

法的義務がない場合のひとつの例としては、同一流域内の住民、NPO、企業、学校、役所などからの代表者による流域協議会による自主的な取り決めが挙げられる。同一流域内での開発事業などによる自然の消失量と自然保護活動による保全量とのバランスを図る（ノーネットロス）などである。筆者は、自然に対する負荷と自然保護の効果が釣り合い、保全と経済活性化が両立している地域を「グリーン・リージョン（Green Region）」即ち、「緑の地域」と呼ぶことを提案している（図2）。



田中 章（たなか あきら）

東京都市大学環境学部教授

東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻博士課程修了、博士（農学）。東京農工大学農学部環境保護学科卒、農学士。英国国立ウェールズ大学大学院日本プログラム環境マネジメント学部長。（社）海外環境協力センター環境アセスメント学会常務理事。平成29年7月21日 東急電鉄株式会社 主催 第9回東急グループ環境賞 努力賞。

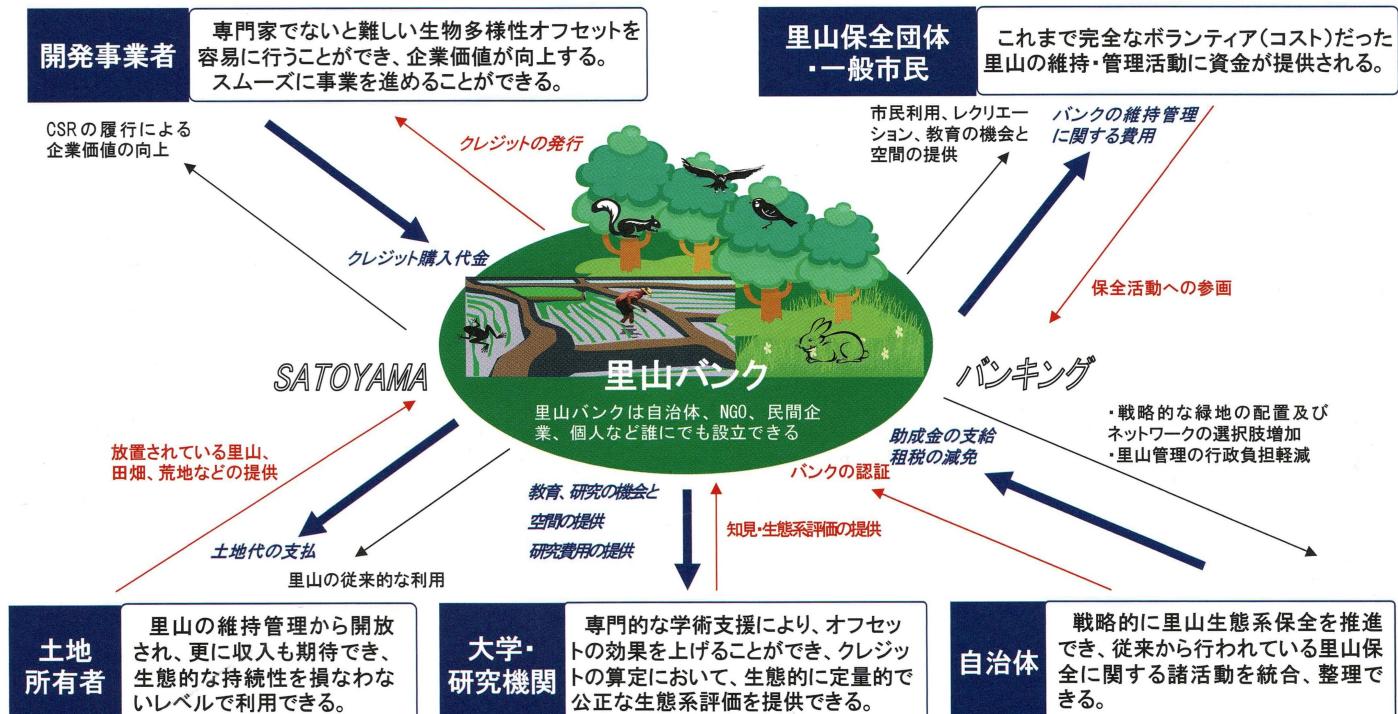


図 1. 里山バンキングの仕組み

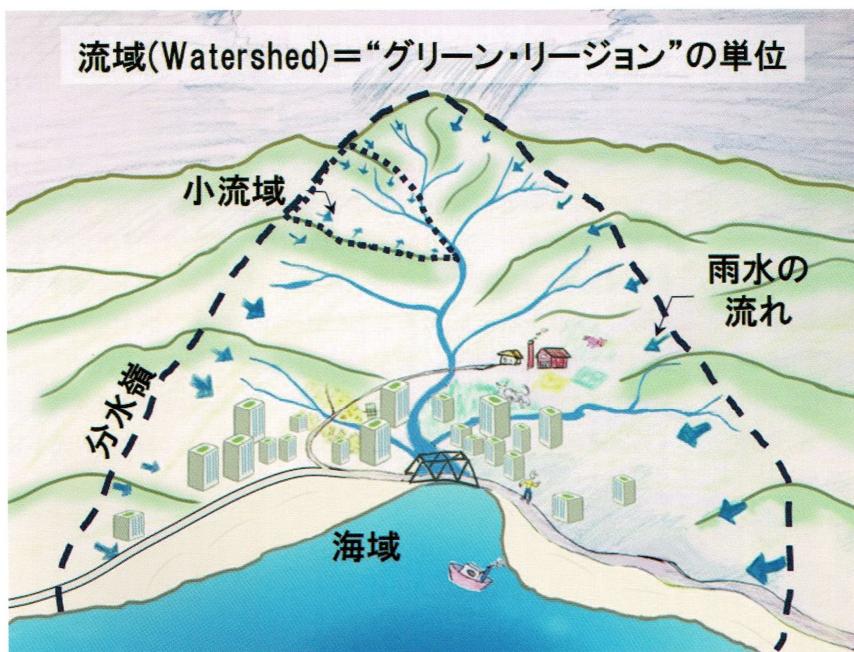


図 2. グリーン・リージョン (Green Region) 「緑の地域」